

船舶事故調査報告書

平成26年1月30日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成25年7月27日（土） 11時50分ごろ
発生場所	愛知県豊橋市佐奈川河口付近 愛知県蒲郡市所在の三河港ラグナマリーナ海陽西防波堤灯台から真方位121°4,620m付近 （概位 北緯34°46.9′ 東経137°19.4′）
事故調査の経過	平成25年8月6日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート ^{ディーゼル} T G Delphinus、5トン未満 240-49683愛知、豊田合成株式会社 7.70m (Lr) × 2.86m × 1.50m、軽合金 ディーゼル機関2基、213.30kW（合計）、平成11年7月
乗組員等に関する情報	船長 男性 35歳 二級小型船舶操縦士（1マイル限定）・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成14年5月20日 免許証交付日 平成24年5月9日 （平成29年5月19日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	船底外板に擦過傷、両舷プロペラ翼の一部に曲損、右舷アウトドライブ装置に亀裂等
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、友人2人を乗せ、昼食をとるため、波の穏やかな場所を探して佐奈川河口付近を主機関を回転数毎分約2,000として北東進した。</p> <p>船長は、フライングブリッジで操船しながら、目視によって見張りを行っていたところ、船首方に浅所を認めたので、Uターンしようと思い、スロットルレバーを微速前進とした上でステアリングを右一杯に回し、スロットルレバーを押した。</p> <p>本船は、右回頭しながら、加速した直後、突然、主機関の回転数が下がったので、船長がスロットルレバーを中立にしたが、平成25年7月27日11時50分ごろ佐奈川河口付近の浅所に乗り揚げて停止した。</p>

	<p>船長は、自力で離礁できず、蒲郡市に所在するマリーナ（以下「本件マリーナ」という。）に携帯電話で救助を要請した。</p> <p>船長は、来援した本件マリーナの救助船に友人2人と共に移乗し、13時30分ごろ本件マリーナに到着した。</p> <p>本船は、潮の満ちるのを待って離礁作業が行われ、18時23分ごろ本件マリーナに到着した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 西南西、風力 3</p> <p>海象：潮汐 下げ潮の中央期</p>
その他の事項	<p>本船は、船長が勤務している会社の福利厚生事業の1つとして社員に貸し出されているものであり、船長は、2～3年前に1度、本船の船長として乗船したことがあった。</p> <p>本船は、2機2軸船内外機船で船尾から機関室、燃料タンク、キャビン及びキャビン上部にフライングブリッジを配置し、フライングブリッジにGPSプロッター、操舵装置、操縦装置等を装備していた。</p> <p>船長は、本船の最大喫水（カタログ値でアウトドライブ装置本体の下端まで0.86m）及び本船に測深装置が装備されていることを知らなかった。</p> <p>船長は、本事故発生場所付近の海域を航行したことがなく、浅所の位置を知らなかった。</p> <p>船長は、目視で海底を確認できるようになれば、乗り揚げの危険があるという認識でいたので、本事故発生時まで危険を感じていなかった。</p> <p>船長は、プレジャーボートの船長として年に一度乗船することがあるぐらいであり、ふだん、岐阜県羽島市の木曾川において、水上オートバイで月に2回程度遊走しており、河口付近が水深の浅い水域であることを知っていた。</p> <p>船長は、水上オートバイが、水深の浅いところまで航行でき、乗り揚げた際も脱出が容易であったので、河口付近が乗り揚げの虞のある水域と見ていなかった。</p> <p>本船は、貝殻の堆積した場所に乗り揚げていた。</p>
分析	
乗組員等の関与	あり
船体・機関等の関与	なし
気象・海象の関与	なし
判明した事項の解析	<p>本船は、佐奈川河口付近を北東進中、船長が、浅所の位置を知らず、目視で海底を視認できるようになれば、乗り揚げの危険があるという認識であり、目視で見張りを行っていたことから、船首方に浅所を視認して右回頭したが、佐奈川河口付近の浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
原因	本事故は、本船が、佐奈川河口付近を北東進中、船長が、浅所の位

	<p>置を知らず、目視で海底を確認できるようになれば、乗り揚げの危険があるという認識であり、目視で見張りを行っていたため、船首方に浅所を視認して右回頭したが、佐奈川河口付近の浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 陸岸に近い海域は、浅瀬等が存在する可能性があることから、浅瀬等の位置が分からない海域には近づかないこと。 ・ 出航前、自船の最大喫水を確認しておくこと。